豊田市中部排水区及び梅坪排水区ほか　大規模雨水処理施設整備事業計画

（様式１）

項　　目	内　容　・　施　策　等
選定理由	豊田市は東海地震防災対策強化地域や東南海・南海地震防災対策推進地域に含まれており、下水道施設においても早急な地震対策の実施が求められている。 耐震化を図る中部排水区、梅坪排水区、本地小川排水区及び向川排水区の雨水管路は、ポンプ場に直結する幹線管路や緊急輸送路に埋設されている管路、鉄道を横断している管路など、重要な幹線に該当する路線である。 また、中部ポンプ場は本市中心市街地に位置し、東側を一級河川矢作川、西側及び南側を丘陵地に接した低地の中部排水区にある。中心市街地の浸水対策として中部ポンプ場を供用開始し、その後、都市化の進行による雨水流出量の増大に合わせて、排水能力の段階的な増強を行ってきたが、初期に整備した施設が供用開始から４０年以上を経過しており、設備の老朽化や耐震性の不足が問題となっている。 これらの施設について耐震化及び適切な機能確保を図り、市民生活に重大な影響を及ぼす恐れのある大規模な地震災害や浸水被害を防止するため、集中的な雨水処理施設の耐震化及び改築を実施する必要がある。
整備目標	①　本計画における対象降雨 ・本計画における対象降雨：69㎜/hr ・目標とする理由：雨水排水機能及び雨水排水ポンプ機能の確保 ・ハード整備による整備水準の目標：雨水管路の耐震性能及びポンプ場の老朽化設備更新による機能確保。 ②　目標設定 ⅰ）生命の保護の観点　　：浸水防除機能を確保することで、人命の保護が期待される。 ⅱ）都市機能の確保の観点：道路冠水を防ぎ、緊急輸送路や鉄道横断部の埋設管路を耐震補強することで、交通機能の確保が期待される。 ⅲ）個人財産の保護の観点：浸水防除機能を確保することで、財産の保護が期待される。 ⅳ）その他　　：特になし 備考）浸水対策の観点（生命の保護，都市機能の確保，個人財産の保護等）から目標設定を行い，その内容について具体的に記述 ③ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について ⅰ）ハード対策 雨水管路を耐震補強整備し、レベル１及びレベル２地震動に対して、耐震性能を確保する。また、中部ポンプ場を改築し、浸水被害を防止することを目的とする ⅱ）ソフト対策及び自助 防災情報の周知などを図ることを目的とした、内水ハザードマップを策定する予定である。 備考）ハード整備における目標水準を記述するとともに，目標水準を超える降雨に対し被害をできるだけ小さくするためのソフト対策及び自助についても目標を具体的に記述

項　　目	内　容　・　施　策　等			
内水ハザードマップ策定状況	・（有）　（令和３年３月策定済み） ・ 策定予定			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・雨水管路の耐震補強整備　L=7,200m ・雨水ポンプ場の整備　排水能力2,681m3/分
			下水道管理者以外	
		ソフト対策	下水道管理者	・内水ハザードマップの策定予定
			下水道管理者以外	
	自助	ハード対策		・各戸貯留浸透施設　50戸/年 （豊田市雨水貯留浸透施設補助金交付要綱、 豊田市浄化槽貯留施設転用事業補助金交付要綱）
		ソフト対策		

備考）事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述
また，下水道管理者以外が行う施策については，道路管理者など実施主体，制度要綱等を具体的に記述
＊下水道浸水被害軽減総合事業に該当する場合、既存の施設調書を別途添付すること

年度計画（百万円）

名称	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
雨水幹線	320.5	447.5	126.4	406.3	425.5	398.1	391.3	472.5	380.0	3,368.1
中部ポンプ場	0	0	0	0	0	7.0	319.0	2,310.0	762.0	3,398.0
計	320.5	447.5	126.4	406.3	425.5	405.1	710.3	2,782.5	1,142.0	6,766.1

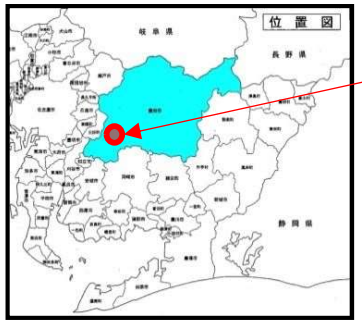
備考）事業内容に位置づけた施設について年割額（事業費）を記述。
整備済のものは含めない。

項　　目	内　容　・　施　策　等
整備効果	・重要な幹線等と位置付けられた雨水管路を耐震補強し、レベル1及びレベル2地震動に対して耐震性能を確保することで、市民のかけがえのない生命、身体及び財産を守ることができる。 ・設置から４０年が経過している中部排水区の中部ポンプ場について、雨水排水機能を適切に確保する。(2,681m3/分、1/7対応)
放流先河川との調整状況	特になし
その他	特になし

豊田市中部排水区及び梅坪排水区ほか　大規模雨水処理施設整備事業計画

〇豊田市は東海地震防災対策強化地域や東南海・南海地震防災対策推進地域に含まれており、下水道施設の早急な地震対策が必要。
〇このため、市民のかけがえのない生命、身体及び財産を守るため、雨水ポンプ場に直結する管路や緊急輸送路に埋設されている管路、鉄道を横断している管路など、重要な幹線に該当する雨水管路について、耐震補強整備を実施する。
〇また、豊田市中部ポンプ場は供用開始から40年以上が経過しており、設備の老朽化や耐震性の不足が問題となっているため、これら施設の適切な機能確保を図り、浸水被害を防止するため、改築を実施する。

位置図



事業の効果

・重要な幹線等と位置付けられた雨水管路を耐震補強することで、市民のかけがえのない生命、身体及び財産を守る。

■管路の耐震補強（例）

・老朽化した設備の更新及び躯体の耐震補強により、ポンプ場の機能確保を図り、浸水被害を防止する。

■ポンプ場の設備更新

事業概要

〇事業内容：
・雨水幹線の
耐震補強
L=7,200m

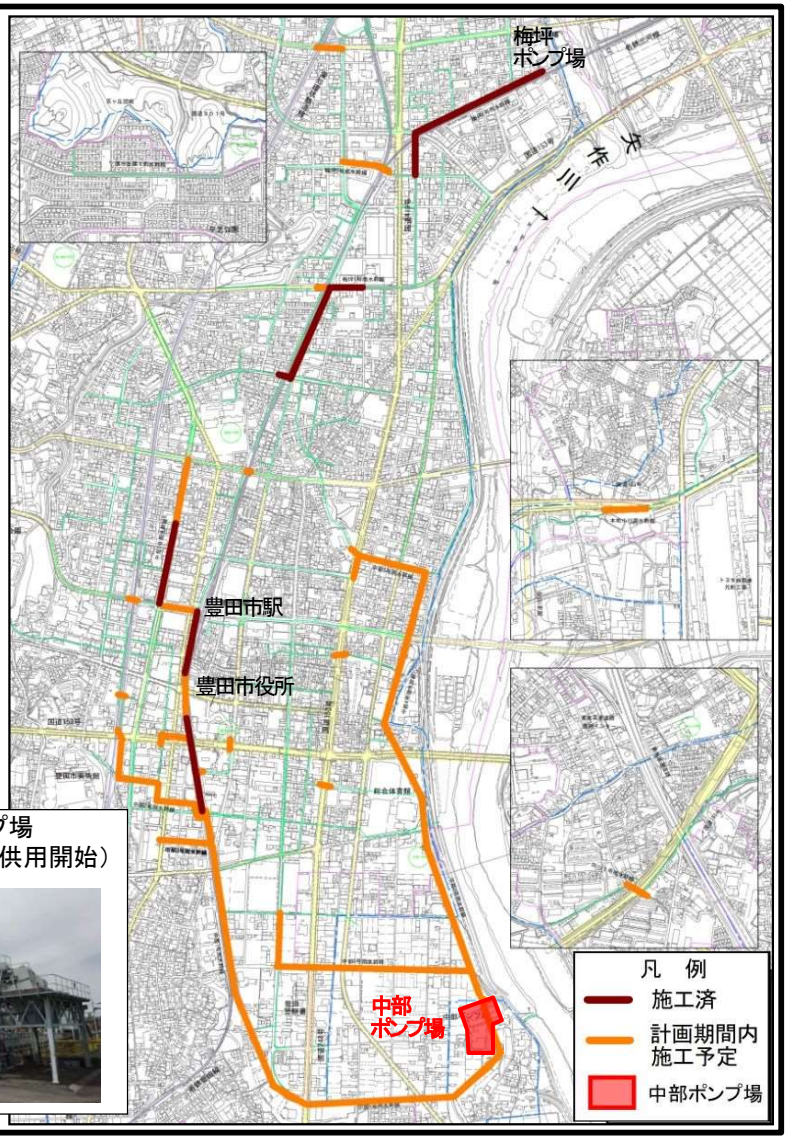
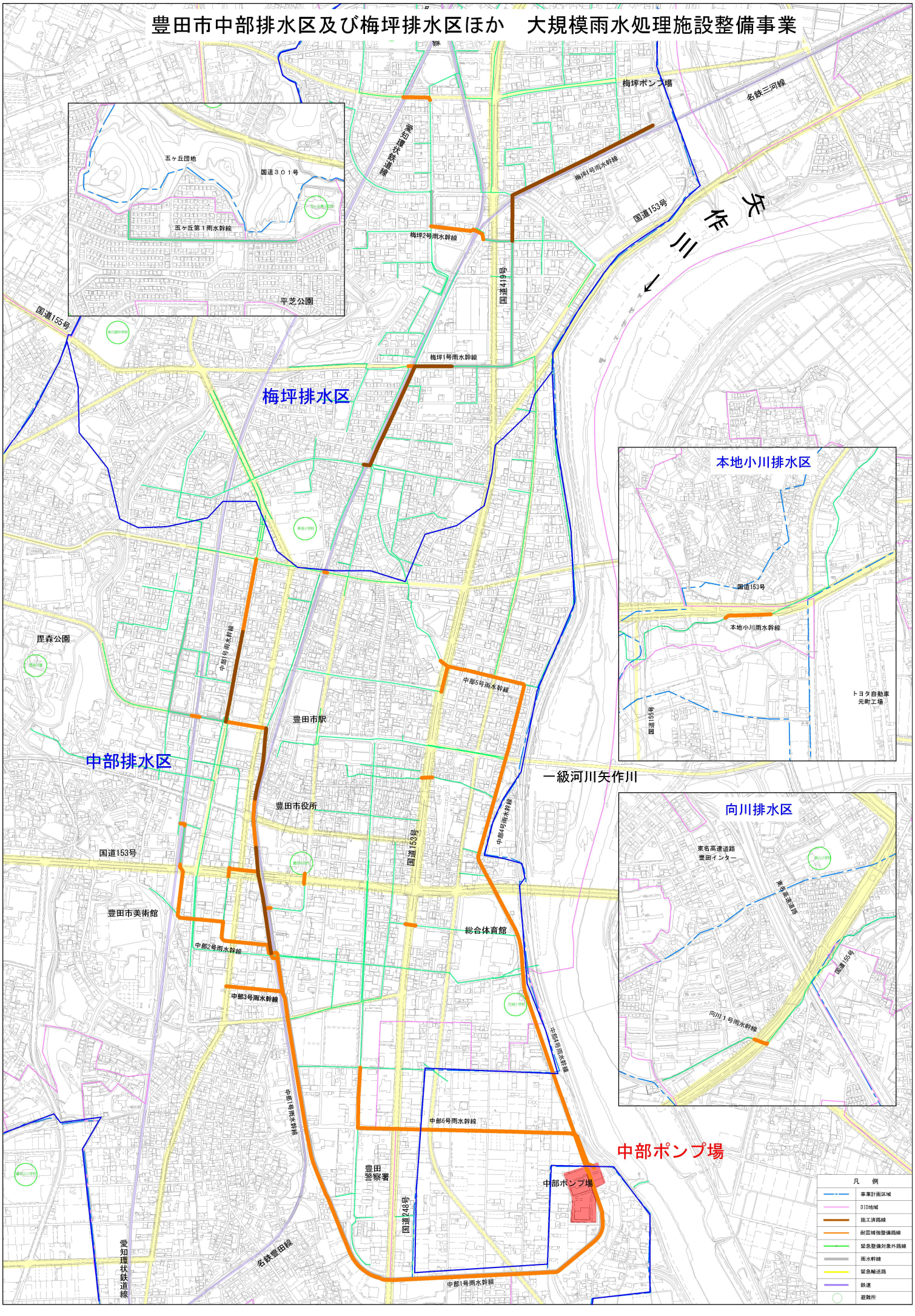
・中部第1ポンプ場
撤去

・中部第2ポンプ場
設備更新、
耐震補強

〇全体事業費：
約68億円

〇事業期間：
令和2年度 ～
令和10年度

豊田市中部ポンプ場
（第2ポンプ場：昭和53年供用開始）



豊田市中部排水区及び梅坪排水区ほか　大規模雨水処理施設整備事業